

「ソドムとゴモラの滅び」

創18:1～19:38

イントロ:

1. 前回までの復習
 - (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
 - (2) アブラハムは、アブラハム契約の「しるし」として割礼を実行した。
2. きょうの箇所
 - (1) 3人の客が遣って来る。
 - (2) ソドムとゴモラに下る裁きがアブラハムに伝えられる。
 - (3) アブラハムは、執りなしの祈りを捧げる。
 - (4) ロトとその家族が救出される。
 - (5) ロトから2つの民族が出る。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 前半: アブラハムの執りなしの祈り
 - ① マムレの檜の木のそばで
 - ② 訪問客を見送る途上で
 - ③ ヘブロン高原で
 - (2) 後半: ロトとその家族の救出
 - ① 客の訪問
 - ② 町からの避難
 - ③ 2つの民族の誕生
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 執りなしの祈りの本質
 - (2) 神が最も憎まれる罪
 - (3) 絶望の中に見える希望の光

このメッセージは、私たちが執りなしの祈りへと駆り立てるものである。

I. アブラハムの執りなしの祈り

1. マムレの檜の木のそばで
 - (1) アブラハムは、天幕の入口に座っていた。
 - ① ユダヤ教の伝承では、割礼を受けて3日目、座って傷が癒えるのを待っていた。
 - ② 日の暑い頃: 正午過ぎ。中東では主たる食事の時間。
 - (2) 3人の人が彼に向かって立っていた。
 - ① アブラハムは、即座に行動した。

- ②「ご主人」(アドナイ)。この3人は、神が2人の天使を伴って現れたもの。
- (3) アブラハムのもてなし
 - ①実際は、必要以上のもてなしをしている。
 - ②これらのもてなしは、ソドムの人々(19章)のそれとは対照的である。
- (4) この食事の本質
 - ①ヘブル的概念で言うと、「契約の食事」、「親しい交わりの食事」である。
 - ②契約の食事という概念は、主イエスの最後の晩餐につながる。
 - ③黙示録3章20節もその延長線上にある。
- (5) サラへの約束
 - 「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには、男の子ができています」(10節)
 - ① アブラハムとサラに語りかけていたのは、神ご自身である。
 - ②約束のことばを聞いた時のサラの反応は、「不信仰の苦笑」。
- (6) 神に不可能はない
 - ①サラの心を見抜く神。神が全知全能であることを示している。
 - ②サラは、恐ろしくなり、「私は笑いませんでした」と言って打ち消した。

2. 訪問客を見送る途上で

- (1) アブラハムは、当時の習慣に従って途中まで客人たちを見送った。
- (2) 神は、ソドムとゴモラの裁きを、アブラハムに対して啓示された。
 - ①アブラハムから出る国は強くなり、地上の諸国民は彼によって祝福される。
 - ②しかし今、その諸国民の中から、ひとつの国が除外されようとしている。
 - * 4つの町々(ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイム)。ツォアルは裁きを免れた。
 - ③神はアブラハムの霊的状态を、経験的に知っておられた。
 - ④それゆえ彼は、「神の友」と呼ばれた(イザ41:8、ヨハ15:15、ヤコ2:23)。
- (3) 啓示の内容
 - ①ソドムとゴモラの罪を糾弾する声大きい。
 - ②神は細部まで観察し、罪の内容を十分知った上で、裁きを下される。

3. ヘブロン高原で

- (1) アブラハムは、ソドムに住んでいるロトのことを心配し、執りなしの祈りを始める。
- (2) 執りなしの祈りの5つの特徴
 - ①主に近づいている。礼拝の姿勢。
 - ②彼は、大胆に神に願っている。
 - ③彼は、謙遜に願っている。

- ④彼は、執拗に願っている。
- ⑤彼は、具体的に願っている。
- (3) なぜ彼は、10人で止めたのか。
 - ①それで十分だと判断した。
 - ②ロトの家族は10人になっていた。
- (4) 語り終えると、主とアブラハムは、別々の道に行った。

II. ロトとその家族の救出

1. 客の訪問

- (1) ふたりの御使いが夕暮れにソドムに着く。
 - ①時は「夕暮れ」。
 - ②それゆえ、ロトは彼らを家に招く。
- (2) ロトはソドムの門のところに座っていた。
 - ①彼は町の長老のひとりになった。社会的地位と権威を持つようになった。
 - ②恐らく、アブラハムのお陰でロトはこうなったのであろう。
- (3) ロトは、ふたりの客を家に招いた。
 - ①彼らが天使であることを知らない。
 - ②天使たちは、最初はその誘いを断っている。ロトを試すため。
 - ③ロトがしきりに勧めたので、天使たちはロトの家に入った。
- (4) ソドムの罪が明らかになる。
 - ①人々はロトの家を取り囲み、「彼らをよく知りたいのだ」と叫んだ。
 - ②「知る」とは親密な関係のこと。ホモセクシャルの関係。
- (5) ロトは、ふたりの未婚の娘たちを代わりに提供しようとした。
 - ①客の安全を守るために、これほどの犠牲を払う覚悟をした。
 - ②彼は、レイプ(強姦)の罪よりも同性愛の罪の方が重いと考えた。
 - ③聖書は、同性愛の罪を厳しく糾弾している(レビ18:22、ロマ1:26~27)。
 - ④ロトの妥協は、アブラハムの神が許容する範囲をはるかに超えていた。
- (6) 人々は、説得されなかった。
 - ①彼らは、ロトをも辱めようとした。
 - ②ロトとふたりの人を捕まえようとした。

2. 町からの避難

- (1) ロトは家の中に連れ戻された。
 - ①戸口にいた者たちは、目つぶしをくらった。

- ②ダマスコ途上のパウロと同じ体験。
- (2) ふたりの天使の命令
- (3) ロトは家を出て、婿たちの家に向かう。
 - ①彼は婿たちを説得したが、婿たちには「それは冗談のように」思われた。
 - ②ロトの姿から、現代の父親像の喪失に似たものを感じる。
- (4) 夜が明けるころ
 - ①御使いたちはロトを促し、家にいる者だけでも集めて逃れよと語る。
 - ②ここで、アブラハムの祈り(18:23)が叶えられている。
 - ③ロトはためらった。まだ家族全員が集まっていないから。
 - ④天使たちは、彼とその妻、ふたりの娘たちの手をつかんで、町の外に連れ出した。
- (5) 天使たちの命令
 - ①急いで逃げよ。できるだけ早く、町から遠ざかれ。
 - ②うしろを振り返らず、前だけを見て進め。
 - ③ヨルダンの低地から逃げよ。低地全体が滅ぼされるから。
 - ④山に逃げよ。「山」には定冠詞が付いているので、これはヨルダンの山のこと。
- (6) ロトの願い
 - ①近くにある小さな町に逃げさせてくださいと懇願する。
 - ②ロトのこの願いは、聞き届けられた。
 - ③祈りの答えは、すべて神の権威による。
- (7) ソドムとゴモラの滅び
- (8) ロトの妻は、ソドムの生活を懐かしがり、うしろを振り返り、塩の柱になった。

3. 2つの民族の誕生

- (1) ロトはツォアルに住むことを恐れ、ほら穴の中に住むようになる。
- (2) ふたりの娘たちは、子孫を残すためにある策略を練った。
 - ①父によって子孫を残すという方法。
 - ②父の子孫を残すという崇高な目的のために、罪を犯した。
 - ③娘たちの内側にソドムの影響が残っていた。
- (3) ロトとその娘たちによって、ソドムがモアブ人とアモン人という形で再生した。
 - ①姉が産んだ子。モアブ(父から)。モアブ人の先祖
 - ②妹が産んだ子。ベン・アミ(私の民の息子、私の親族の息子)。アモン人の先祖。
- (4) この個所を最後に、ロトの名前は聖書から消える。
 - ①人類救済の歴史から見ると、彼の存在が何の意味も持たなくなった。
 - ②これ以降は、モアブとアモンがロトに代わって聖書の舞台に登場する。
 - *イスラエルの民に対して、歴史上最悪の姦淫と偶像礼拝の罪を犯させる。

*民25章のバアル・ペオルの事件

*レビ18:21のモレク礼拝の禁止

結論

1. 執りなしの祈りの本質

(1) 5つのキーワードを意識して祈る。

①礼拝の姿勢

②大胆

③謙遜

④執拗

⑤具体的

(2) 祈りに対する神からの答え

①アブラハムの願い通りにはならなかった。

②しかし、アブラハムの祈りの精神は聞き届けられた(創19:29)。

(3) メシアの祈り

①「地上のすべての民族を祝福する役割」(創12:3)を与えられたアブラハム。

②私たちは、ルカ23:34の祈りによって救われた。

③クリスチャンの執りなしの祈りは、祭司的使命の実践である。

2. 神が最も憎まれる罪

(1) 罪には、深刻さの段階がある。

(2) 同性愛の罪は、弁護の余地のないものである。

(3) マタ11:23~24 メシアを拒否する罪は、さらに重い。

3. 絶望の中に見える希望の光とは何か(恵みの要素)。

(1) ロトの評価

①Ⅱペテ2:6~9 ロトは義人

②ソドムに住むこと自体は、罪ではない。

(2) ソドムの回復

①千年王国において

②エゼ16:44~57

(3) モアブ人の子孫

①ルツの誕生

②彼女は、ボアズと結婚し、オベデ、エッサイ、ダビデとつながる。

③彼女は、メシアの家系にその名を留めることになる。